

クロザピン（クロザリル）治療

クロザピン治療

統合失調症では、幻覚や妄想などの症状により、長期にわたる入院を余儀なくされたり、家に引きこもって外に出られなかったり、生活に支障をきたしている場合があります。あるいは「錐体外路症状」という副作用のために治療薬をきちんと用いることができない場合があります。このような状態を「治療抵抗性」といいます。



クロザピンは世界中で広く使用されており、治療抵抗性統合失調症に対して高い治療効果があると評価されています。「遅発性錐体外路症状」という、抗精神病薬の治療中に出現しやすい副作用を起こしにくいという特徴も有していますが、無顆粒球症や糖尿病、心筋炎など、重い副作用が起きることもあります。

- * 「錐体外路症状」とは、脳の錐体外路系の障害によって引き起こされる運動機能の異常のことで、手のふるえ、歩行困難、小刻み歩行などがみられることがあります。

クロザリル患者モニタリングサービス（CPMS）

クロザピン治療は CPMS というシステムに登録を行います。適切な頻度で検査を行うことで、安全に使用されているかを絶えず確認することを一つの目的としています。導入は、入院治療にて行います。総合病院血液内科と連携が取れる体制を確保しています。

お問い合わせ

クロザピン治療について詳しい説明を受けたいという患者さんやご家族の方は、相談室にご相談ください。

受診相談：0565-47-5521（月～土：9:00～16:30）